

令和7年度 第59回 中学生の「税についての作文」

まちだ納税貯蓄組合連合会 優秀賞

『当たり前を支える税金の力』

町田市立薬師中学校 3学年 井之上 心咲

私たちが毎日生活している中で、「当たり前」の環境は税金によって支えられていると思います。ニュースで「税金の使い道」や「増税」などの言葉を聞くと、大人だけの問題のように感じますが、本当は私たち中学生の生活にも深く関係しているものです。まず、税金はどこに使われているのか。身近な例でいうと、私たちが通っている学校に関わっています。教科書が無料で配られるのも、体育館や校舎が建てられるのも、先生たちのお給料も、全部税金から出ています。もし税金がなかったら、教科書は全部自分のお金で買わなければいけないし、授業料も高くなると思います。私たちが「当たり前」に思っている環境は、実は税金によって支えられているのだと気づきました。他にも、道路や橋、病院、消防や警察など、暮らして欠かせないものも税金で成り立っています。例えば火事が起きたとき、消防車がすぐ駆けつけてくれるのは、「みんなのお金で」で準備されているからです。もし自分で料金を払わないといけなかったら、助けを呼べない人が出てきてしまうかもしれません。そう考えると「みんなで出し合って、み

んなで守る」という仕組みはとても大事なのだと思います。

では、なぜ税金が必要なのか。私は、「社会を平等に保つため」だと考えます。お金持ちの人だけが安全な道路を使えて、そうでない人はボロボロの道しか歩けないとしたら、不公平です。税金は、みんなから少しずつ集めて、誰でも安心して暮らせるように分配する仕組みです。もちろん「本当に正しく使われているのか？」という疑問はあります。ニュースでは無駄遣いの問題が取り上げられることもあり、せっかく集めたお金が無駄になっているのでは、と不安に感じることもあります。でも、だからこそ私たちが将来大人になったとき、どう税金を使うか考える立場になるのが良いと思います。

最後に「税金があるからこそできていること」を考えると、やはり「みんなが安心して暮らせる社会」だと思います。道路や病院、学校など、税金で成り立っているものはあまりに多くて、もしなかったら生活は一気に不便で危険になるでしょう。今は当たり前にも思えても、それは税金があるからこそ実現している「安心」なのです。私はまだ中学生で大人のようにたくさん税金は払っていませんが、こうして学んでみると、税金は単なる「お金を取られる仕組み」ではなく、「みんなで未来を作る仕組み」だと感じました。将来自分が働いてもっと色んな税金を納めるようになったとき、ちゃんとその意味を理解したいと思います。